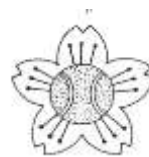


令和6年6月28日発行

横浜市立六浦小学校学校だより



# むつうら



本校教育目標「つながるなかま まち いきいき 六浦っ子」

## 花鳥風月の森

副校長 菅原 明子

登下校時、正門に立っていると思いに「花鳥風月の森」で楽しんでいる子どもたちの姿が見られます。花鳥風月の森は、毎年、学習活動を通して子どもたちと教職員が地域や保護者の方々の協力を得ながら築いてきた場所です。

本校には、正門からこの花鳥風月の森を通して昇降口に行くまでに、子どもが体験を通して学びに向かうための魅力的な「しかけ」がたくさんあります。

3年生は月曜日の登校時、土日にお世話をしたカイコが入っている箱を各々大事そうに抱えて正門を歩いていきます。「カイコが糸をはいたんだよ。」とそうっと空き箱を開けて見せてくれる子もいます。2年生の子は、正門横の畑にまっしぐら。自分の背丈より大きくなったトウモロコシを見上げた後、その手前に植えてあるミニトマトを見て、「あっ、花が咲いた！」と思わず声をあげています。4組の子たちはこの畑で収穫した立派なタマネギを教室に吊るして乾燥中。「タマネギを皆にもプレゼントしたい」と給食で出す計画を立てているそうです。4年生もへちまとヒョウタンの世話をしています。1年生は、卒業生が残してくれた「150（いちごまる）の池」でメダカをそっとすくったり水の感触を楽しんだりしています。また、育てている自分の鉢のアサガオへ水やりをしている子もいます。間引きしたときのアサガオは、プランターに植え替えられ、花鳥風月の森の中に「アサガオアーチの小道」が出来上がっています。その小道を楽しそうに通っていく子の姿も見えます。この小道の横には、5年生が土づくりをし、田植えをしたばかりの田んぼがあり、田んぼの周りには様々な種類の季節の花が咲き乱れています。6年生は、花鳥風月の森をヒマワリの花でいっぱいにして土づくりを行い、全学級に働きかけ、全校児童が種まきを終えたところです。

この森には「本気になってかかわった体験は語りたくなる・他者とも喜びを分かち合いたくなる」子どもの姿があります。これからも教職員一同、花鳥風月の森とともに子どもの育ちを見守り育んでいきます。地域の皆様、保護者の皆様のあたたかいご支援をよろしく願います。